

未来医学研究会への期待

未来医学研究会の更なる発展への期待

小幡 誠 Makoto Obata
未来医学研究会　監事
(株)イノメディックス

1961年の国民皆保険の施行により、それ以前医療は仁術に繋がる謂わば施療という概念であったものが、突然当然の権利として享受出来ることとなりましたが、結果的には此の事によりわが国が世界に冠たる長寿国となった由縁は、皆様方ご高承のとおりであります。これにより現在年9兆円ともいわれる医薬品中、それまでは一般用医薬品の比率が高かったものが、医療用医薬品のシェアは昨今では9割に達している状況です。此の事に由来して、1977年ごろから医療費、殊に薬剤費の高騰に関連して当時はプロパーと呼ばれていた（起源ドイツ語Propagandist）医薬品メーカープロモーション担当者の医薬品にあるまじき売らんかなの姿勢が国会でも激しい批判の対象となり、監督官庁であった当時の厚生省から、製薬業界に強い指導がかかりました。私は丁度その頃、勤務していた三共㈱の営業現場から教育研修担当責任者に任務変更となり、卒業以来20年も経過、あまりの医療の変容で急速な知識の充電を切望しておりました。運よく、受講中に本研究会が設立された9期生として参加することとなり、桜井教授・山田助教授をはじめ関連の方々には大変お世話になりました。特に医療機器については殆ど未知の世界でしたので、その後も続く幅広い領域の同期の人々等との交友も含めて極めて有意義な体験でした。

一方、前記の政治的規制に対応する草案作りを担当した製薬協流通委員会・教育研修小委員会委員長、引き続いて設置された教育研修委員会委員として、法律・倫理・制度を正しく踏まえた、更に医薬品の伝道者たるに相応しい知識・技能・態度についてのカリキュラムを作成しました。必須である導入教育と同時に業務研修としてはいち早く各界に先駆けて継続研修の制度も取り入れ、自主的な各社による研修も業界自体で監査するシステム造りにも関与しました。業界・監督官庁のコンセンサスも得、これが実行に移される事となりましたが、加えてイメージチェンジのためプロパーなる呼称も、医薬情報担当者/MR（Medical Representative）に改めることも含めて、事態収拾の基を造る事が出来これが現行のMR制度にも繋がっている次第であります。私自身ではこれらの作業過程で必要であった関連基礎知識の殆どがカリキュラムで体得できたことと言って過言ではないと思っております。

現在のカリキュラムの母体である先端生命研も、岡野教授を中心として再生医学を基盤とする素晴らしい将来性ある希望に満ちた展開を果たしておられ、本会の大発展も確実なものと思われますが、会員一同折角与えられた場として本会への更なる参画意識を高めて活動を推進させて行く事を期待したいものであります。

●略 歴

1935年3月　新潟市生まれ
1957年3月　千葉大学　薬学部　卒業
1957年4月　三共株式会社　入社
（都内、関東甲信越にて医薬営業活動に従事）
1977年1月　三共株式会社　本社第一医薬品部課長
1977月10月　第9回医療産業技術者養成カリキュラム
～1978年9月（東京女子医科大学医用工学研究施設主宰）受講～修了
1978年1月　日本製薬工業協会流通委員会　教育研修専門小委員会委員長
1978年5月　日本製薬工業協会流通委員会　教育研修委員会　委員
（～1985年5月迄関与）
1985年5月　三共株式会社　仙台支店医薬部長（医科向医薬品担当）
1988年3月　三共株式会社　東京第二支店長（北関東・甲信越担当）
1988年3月　三共株式会社　人材開発部初代部長
1995年4月　三共生命科学研究振興財団　出向（常務理事）
2002年9月　三共生命科学研究振興財団　退任　同時に三共株式会社退社
2002年10月　特定非営利活動法人（薬剤薬局の業務改善が主旨）薬と健康を考える会設立に関与、事務局主宰
2005年7月　上記NPOを日本薬局管理学研究会と改称引継ぎ、事務局長退任
2006年5月　浜医科工業株式会社（医療機器製造販売・並びに医薬品販売）管理薬剤師
2008年5月　㈱田中三誠堂（医療機器・医薬品販売）と合併誕生した㈱イノメディックスにて引き続き管理薬剤師として勤務、現在に至る
所属団体（入会順）
一般社団法人　未来医学研究会
一般社団法人　日本統合医療学会
一般社団法人　日本医療機器学会
一般社団法人　日本プライマリ・ケア連合学会　等